

令和7年2月14日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 小川 稔宏

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ・みんなの森ぎふメディアコスモス (岐阜県岐阜市司町 40-5)
- ・南箕輪村役場 (長野県上伊那郡南箕輪村 4825 番地 1)
- ・伊那市立伊那小学校 (長野県伊那市山寺 3221)

2. 視察事項

- (1) 賑わいを創出する複合施設の在り方について
(岐阜市立中央図書館・市民活動交流センター・多文化交流プラザ)
- (2) 南箕輪村の移住定住対策及び子育て支援事業について
- (3) 伊那市立伊那小学校第 46 回公開学習研究会について

3. 視察の目的(市政との関連など)

多様な市民サービスを提供する複合施設や移住実績のある自治体および全国的にも評価が高く主体的な学習に取り組む小学校の取組を学ぶことによって常任委員会や個人一般質問での提言の参考とするため

4. 期間(移動日を含む)

令和7年1月30日(木) ～ 令和7年2月1日(土)

5. 経費

47,958円

(経費内訳 旅費 43,587円、参加費その他 4,371円)

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

- ①多様な市民サービスを提供するセンター施設の実態を把握し複合施設の在り方について市への提言を探る
- ②若者移住率の高い村の実態を把握し移住定住促進への提言材料とする
- ③長年の主体的な総合学習の成果を把握し浜田における初等教育の在り方の参考とする

7. 視察内容(詳細は別紙のとおり)



(I) みんなの森 ぎふメディアコスモスについて

[岐阜市の概要] (令和6年4月現在)

岐阜市は岐阜県の県庁所在地で人口 399,492 人、世帯数 186,907 世帯、面積 230.60 km²。濃尾平野の北部に位置し、名古屋市からは約 30 km の距離である。織田信長によって稲葉山城が攻め落とされ、この地を拠点とし天下に覇をとるため以後商工の町として発展している。市内を流れる長良川の鵜飼は有名で岐阜城と共に観光資源となっている。

[視察目的]

浜田市では老朽化した浜田郷土資料館の建替えとあわせ伝統文化である石見神楽の保存・伝承と拠点施設の整備と候補地の検討が課題となっている。市が取得した「三桜酒造跡地の公共活用に関する提言書」では活用にあたっての基本的な考え方では市の内外から多くの人が訪れ賑わいのある公共用空間となるよう求めている。多様な市民サービスを提供するセンター施設の実態を把握し、複合施設の在り方を研究し、今後示される整備方針の妥当性、市民ニーズとの整合性などの論点整理の参考とする。

[概 要]

平成 27 年 7 月にオープンし来年 7 月で 10 周年を迎える「みんなの森 ぎふメディアコスモス」は「知の拠点」の役割として未来の扉を開く市立中央図書館、人と人をつなぐ「絆の拠点」となる市民活動交流センターと、多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー・ホール等からなる複合施設である。開館当初の目標を大きく上回り年間 130 万人を超える人たちに利用されている。南側に建設された市役所新庁舎が相乗効果を発揮し賑わいの拠点となっている。

市民活動の発表の場となる「スタジオ」を備え、市民活動を積極的に支援する「市民活動交流センター」、国際交流の場となる「多文化交流プラザ」、展示や発表会、講演会やセレモニーなど多様な使い方ができる「みんなのホール」、「みんなのギャラリー」、「つくるスタジオ」、「こどもへや」、「ドキドキテラス」などを設置している。

① 中央図書館も含め岐阜市役所の市民協働推進部直轄で運営。

(令和6年4月1日現在)

	ぎふメディア コスモス事業課	市民活動交流 センター	図書館 (内司書人数)	計
正規職員	10	15	19 (12)	44
フルタイム	3	1	5 (4)	9
パートタイム	2	12	54 (54)	68
計	15	28	78 (70)	121

■施設概要と特徴

敷地面積 14,725.39 m²

建築面積 7,530.57 m²、

延床面積 15,444.23 m²

建物高さ 16.09m

- オープンな空間：全体に壁を少なくして一体感を生み出し「まち」のような建築。
- 木製格子屋根：2階天井部分は県産材の東濃ヒノキを9～21層にレイヤー状に組み上げ、リラックス効果あり。
- グローブ：自然光を室内に拡散、上部水平窓の開閉で自然の風の流れを生み出す。
- 環境への配慮：太陽光・太陽熱を利用すると共に長良川の伏流水を利用した熱源管理で消費エネルギーを同規模建物と比較し1/2に半減。
- その他 館内にスターバックスコーヒー及びコンビニのローソンが出店している。

【調査事項】

①複合文化施設として整備するに至るまでの経緯と評価について

平成16年度に岐阜大学医学部附属病院移転、以後、跡地利用の基本構想(H17)前、基本計画(H22)後などの節目に市民意見を募集し、図書館や行政施設等といった施設機能の意見を反映。

●事業費内訳

●資質評価型プロポーザル方式で設計者選

土地取得費	約26.7億
設計費	約3.3億
建築費	約76.3億
(内訳) メディアコスモス	約59.9億
工事監理	約1.0億
広場整備	約5.2億
立体駐車場建築	約9.1億
暫定地整備	約1.1億
図書・備品費等	約13.2億
合計	約119.5億

●財源内訳

国補助金	約34.1億
県補助金	約0.3億
市債（うち合併特例債約55.4億）	約59.7億
岐阜大学医学部等跡地整備基金	約6.6億
元気なぎふ応援基金	約0.1億
図書館整備基金	約12.3億
一般財源	約6.4億
合計	約119.5億

定 ⇒ 伊東豊雄建築設計事務所

②センターや図書館など年間維持費用について

施設管理費（ぎふメディアコスモス事業課）

（単位：千円）

科目	管理委託	光熱水費・燃料費	その他（消耗品等）	合計
R5 決算額	289,634	45,719	20,647	356,000

※管理委託（警備業務、施設管理業務、清掃業務、総合案内・施設貸出業務、駐車場管理業務、広場維持管理業務、ほか各種保守業務）

③ 施設整備方針への市民の反対意見については施設整備時の資料が限られており「市民の反対意見の特徴」を示す情報の回答は困難。

④ スターバックスコーヒー出店の経緯は、館内カフェレストスペースへの出店事業者を公募し審査を経てスターバックスコーヒージャパンを選定。2016年2月開店。

⑤ みんなの広場カオカオ（メディアコスモスと市役所の間の広場）への出店状況（利用状況）はキッチンカー等が出店可能なエリアとして広場に 10 区画を設定。R5 年度稼働率 83.0%、年間 2904／3500 区画（※10 区画／日）

（１） 市民活動交流センターについて

【概 要】

市民活動センターは、「絆の拠点」「文化の拠点」として、市民活動を「知る」「楽しむ」「支える」「育てる」「創造する」の 5 つの基本的な機能を有する。各種相談、団体間の紹介と連携づくり、人材育成、調査研究などを進めており、市民活動支援ブースを設置し、共同事務所スペース、団体のオフィス機能、国際交流の促進などを担う。具体的には、保健・医療・福祉、社会教育、まちづくり、観光の振興、農山漁村・中山間地域の振興、学術・文化・芸術・スポーツの振興、環境の保全、災害救援活動、地域安全活動、人権の擁護・平和の推進、国際協力、男女共同参画社会、子どもの健全育成、情報化社会、経済活動、職業能力開発・雇用機会拡充、消費者保護、団体の運営と活動、などの分野で市民活動団体を育成支援。

市民活動支援事業として、地域社会の課題解決を目的として市民自らが企画・実施する事業を応援しており、平成 6 年度は「ひきこもる方々とそのご家族の支援・居場所づくり」「夜の子どもの居場所『ごろごろ』」など 25 団体が助成を受け事業活動を実施している。

【調査事項】

利用団体数（利用者数）のコロナ前と後の年間推移について

令和元年度 272 団体、令和 2 年度 260 団体、令和 3 年度 260 団体、令和 4 年度 289 団体、令和 5 年度 318 団体、令和 6 年度（12 月末現在）321 団体。

市民の自治的活動や主体的な活動としては有志が、全館イベントへの協力や情報交換・発信、館内ツアーなど様々な企画を考え取り組む団体として「メディコスクラブ」という任意団体を設立した。毎月第 2 木曜日にメディコスクラブ情報交換会を開催し、団体の活動報告やイベントの魅力アップに向けた方策など、団体同士の積極的な交流を図っている。

「つくるスタジオ」などの各スタジオの利用状況と市民からの評価について

[利用状況]

年 度	利用状況累計	内印刷機利用	内打ち合わせ等
令和 4 年度	1900 件	(1511 件)	(389 件)
令和 5 年度	1874 件	(1580 件)	(294 件)
令和 6 年度 12 月末	1405 件	(1172 件)	(233 件)

市民からの評価は、つくるスタジオの利用で特に多いのが、印刷機の会議・打ち合わせでの利用。市民活動団体からは「低額で印刷機が利用できるため大変助かっている」「団体メンバーとの打ち合わせ場所に困ることがなくなった」など高い評価を得ている。

（２） 多文化交流プラザについて

【概 要】

岐阜市の外国人住民数は1万人を超え、外国人の生活支援、就労相談と支援、就学支援、日本語学習講座、行政相談などの対応が必要。国際交流協会など団体の支援、多文化共生社会づくり、外国語講座、国際化への啓発と理解などを進めるため各種事業を行っている。

【調査事項】

外国人の生活相談窓口利用状況では第1位フィリピンでフィリピン国籍の外国人市民は2,000人以上と多い。子どもの小中学校への編入、日本語教育についての相談が増え、保険料、税金支払など行政手続き、在留資格が挙げられる。第2位ブラジルで国籍別の外国人市民数は400名程度。非正規雇用で働く人が、不安定な収入や雇用で日常生活に困るケース、税金や保険料支払いの分割・猶予・免除の申請、生活保護の申請など経済面に関する相談が多い。その他様々な国籍の相談があり、英語、日本語などで対応しており、全体を通して、行政手続きの通訳、日本語教育に関する相談が多い。

多文化交流プラザに設置している外国人相談窓口は、岐阜市の委託事業として実施しているため、庁内と密に連携を取ることができている。その他、日本人と外国人の交流イベントを毎月実施し、外国文化を紹介する講座を毎年実施している。

（3）岐阜市立中央図書館について

【概 要】

市立中央図書館は、最大所蔵可能数90万冊、座席数910席、施設最大の特徴のひとつとして木製格子屋根により空間が彩られ、壁がない広い館内は多くの市民が集える、学べる空間となっている。図書館のポイントを、中高生がつながる、子どもがつながる、まちがつながる、みんながつながる、として文化の拠点として位置づけ、滞在型図書館をめざしている。

【調査事項】

図書館設計のコンセプトについては「図書館は本で人とまちをつなぐ屋根の付いた公園です」をコンセプトとし、滞在型図書館をめざし、「ここにいることが気持ちいい」「ずっとここにいたくな」「何度でも来てみたくなる」は3つの合言葉となっている。「子どもの声は未来の声である」を大切にしている。

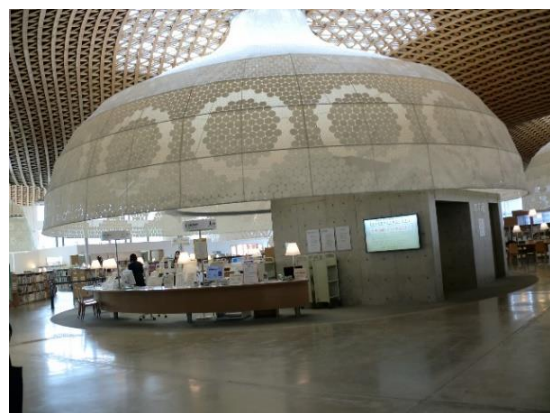
所蔵数および利用者数については令和5年度 582,300冊（視聴覚資料を含む）利用者数 880,782人。本の色あせを防止には紙の遮光カーテンや遮光ブラインドに使用している。

【所感】

「子どもの声は未来の声」というフレーズを様々な場所で見聞したがこの理念をととても大切にされている。館内で子どもの声が少々にぎやかであっても構わないという施設の方針が踏襲され使用者、市民も共有している印象を受けた。子ども連れで気兼ねなく利用できる施設になっているので、手製の弁当を持参しほおぼる学生の姿にも違和感はない。図書館を中心にしながらも様々な市民ニーズに合わせて利用が可能な施設が豊富にあることも利用者の満足度に繋がり市民に親しまれる施設といていい。図書館では観光案内も含め情報発信も普通の市民に焦点をあてたパンフレットの作成、販売や司書と利用者をつなぐ

利用者の悩みや相談事に寄り添いメッセージのやりとりも応じている。自らの推薦図書の紹介コーナーの企画もある。普通の市民に光を当てる取り組みなどもされおり先進的な機能を備えた図書館であり有志も含め市民参加の「みんなで創る」を大切にした図書館運営がなされている。

令和5年度来館者アンケート調査（回答数995件）ではメディアコスモスが好き・どちらかというときも含む）99.3%。誇りをもって紹介できる・どちらかというときできるは88.2%。施設のイメージについても回答者の70%が「居心地がいい」、50%が「雰囲気がいい」と答えている。今後の公共施設の整備にあたっては市民が誇りをもって紹介できるようなもの施設を目指す必要がある。浜田市における施設整備に関しては明確なメッセージ、しっかりしたコンセプトを市民が共有できる過程が極めて重要である。多くの市民が楽しめる施設を期待したい。



（Ⅱ）南箕輪村 移住定住対策・子育て支援について

◆南箕輪村の概要について

南箕輪村は（令和7年2月1日現在）人口16,030人、世帯数6,784世帯、面積40.99km²。人口は2,333人で明治8年に村が誕生して以来、ほぼ着実に人口が増加し移住者の割合は73.3%である。明治8年に南箕輪村として誕生して以来合併も分離もなく令和7年に村政150周年を迎える。産業別就業者数の推移は第1次産業が低下傾向で、第2次・第3次産業は増加傾向で医療・介護分野での増加が大きい。南箕輪村は自然も豊かで東京圏からは2時間30分、中京圏からは2時間程度の距離にありアクセスが良い。村の面積は人口ゼロの飛び地の森林地帯を除くと20km²程度とさほど広くないなかに小学校が2校、中学校が

1校、県立の農業高校、県立の工科短大、国立大学農学部、大学院までの教育機関があるめずらしい町である。

[視察の目的]

全国に先駆けて子育て施策に力を入れて取り組まれてきた経緯はあるが、人口の増え続ける村、若者移住率の高い村で、「子どもを育てるなら南箕輪村が良いらしいよ」と口コミで広がる理由、背景や要因を把握し、移住・定住など人口減少対策の参考とする。

【調査事項】

◆人口推移 S51年 8,000人 ⇒ S60年 10,000人 ⇒ H7年 12,000人
⇒ R4年 15,000人 ⇒ R7年 1/1-16,051人(転入者は近隣市町村からが多い)

◆人口動態の推移

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
転入者	696	758	898	835	694
転出者	607	675	711	721	725
出生数	162	134	143	141	139
死亡数	145	135	157	153	163
増減数	+106	+82	+173	+102	-55

◆年齢別人口

40代～50代層が多い
高齢化率は23.8%!
県下で最も低く若い村

年代	人数	内男性	内女性
55～59歳	986	503	483
50～54歳	1096	620	697
45～49歳	1212	613	582
40～44歳	1096	579	517

◆産業別就業人口分布 ○8229人

第3次産業	4619人〈商業サービス業〉
第2次産業	3145人〈製造業工業建設業〉
第1次産業	465人〈農業林業〉

◆人口推計

長野県全体で人口減少するが、南箕輪村だけが2020年から2050年の人口増加予測

●南箕輪村における人口増加の要因 ～移住者も暮らしやすい環境づくり～

(1) 子育て支援施策

①保育料の引き下げ

H17	H18	H19	H20	H24	H26	H27	H30
5.0%	3.8%	4.2%	3.5%	2.07%	長時間保育料引き下げ	8.4%	1.82%

※R元年10月から国施策保育料無償

②福祉医療費給付の充実 対象年齢を段階的に引き上げ H17 年度未就学⇒H25 度高校 3 年生まで。

給付方式と自己負担額 H24 度償還払い自己負担 300 円 ⇒ R4 年度現物給付自己負担ゼロ
窓口完全無料化

③保育園児数の推移

H17 年 539 人 ⇒ R1 年 767 人(228 人増加) ⇒ R6 年 697 人(158 人増加)

④小中学校の児童・生徒の推移

H17 年度 1,336 人 ⇒ R6 年度 1,540 人(204 人増加)

⑤子育て関連施設

村内に 6 つの保育園(村営)と療養施設のたけのこ園

すくすくハウス(H17 年開所)、子供館(H29 年開館)

保育園から小・中・高(上伊那農高)・短・大・大学院(信州大学農学部)まで

⑥その他の子育て支援策

1, 子どもの窓口一元化 2, 不妊・不育症治療費助成 3, たけのこ園(発達支援) 4, 使用済みおむつの保育園廃棄 5, ファミリーサポートセンター 6, 病児病後児保育事業 7, こども館 8, 放課後児童クラブ	9, ママのための湯ったりタイム事業 in 大芝の湯 10, 産後育児ヘルパー派遣事業 11, 保育士(会計年度任用職員)の処遇改善 12, 女性再就職トータルサポートセンター 13, 保育園・小中学校共通の連絡システム 14, 小学校体育専科教員の配置(R5 村職員 2 名採用) 15, 就学資金助成
--	--

(2) 高齢者・障がい者への支援施策 福祉の窓口一元化

<高齢・障がい者対象> ・福祉移送サービス ・福祉タクシー券	<高齢者対象> ・介護支援 ・福祉医療費 ・敬老祝金 ・補聴器購入費用助成	<障がい者対象> ・家賃補助 ・自立生活体験 ・生活サポート
--------------------------------------	---	---

(3) SNS の情報拡散 クチコミが広がり現在の増加につながった。

※現在では条件が異なっている部分がある。

- ・18 歳まで医療費が無料なんだって！
- ・保育料が安いんだって！
- ・子どもと親の触れ合う場が多いみたい。

- ・子育てサービスが充実しているよ。
- ・A子もB子も南箕輪に家を建てたって！
- ・自然が豊かで土地も広い。しかも土地代が安い！
- ・インターチェンジがありアクセスがいい。
- ・上下水道料金が他より安いわ！
- ・「子どもを育てるなら南箕輪村が良いらしいよ」

【所感】

南箕輪村は平成の大合併では村民の65%（約7割）が合併に反対した経過があり、自立を選択した村としての決意がその後の子育て施策に繋がっていると思われた。全ての保育園が公営で運営されていることも直接関連はないものの多くの自治体の効率化一辺倒の行政運営との因果関係は地域の活力の面からも影響していると感じる。

人口を維持し村を存続するには「子育てに優しい村」にしていくことが必要で「働く母親が、安心して子どもを産み、育てられる環境の充実」が重要であるとの認識のもといち早く手厚い子育て支援を実施している。「日本一の子育て村」を目指し保育料の引き下げや福祉医療費の支給対象者の拡大などの子育て支援に力を入れられたことで、「子育てをするなら南箕輪村」と言われるようなイメージが近隣市町村にも浸透していったといわれている。

南箕輪村の場合は、宅地の価格が近隣自治体に比べ低く住宅を持ちやすいこと、他の自治体に先駆けて、子育てのための施設整備やソフト事業を充実してきたこと、交通の利便性や平坦な地形などの立地条件に恵まれていることなどから、「子どもを育てるなら、南箕輪村が良いらしいよ」といったクチコミが広がり、子育て世代が転入し子どもを産むという好循環が生まれている。

年齢別人口を見ても40代から50代が多く高齢化率は23.8%と県下で最も低く若い村といわれているような活気がある。

南箕輪村は移住者の割合が73.3%（令和4年度地域福祉計画策定時のアンケート結果）と高い。村民が移住者に慣れていることや、上手に移住者を受け入れてきている面もあり、因習の影響も少なく、日常生活のなかでのほど良い距離感、安心感がクチコミの広がる背景にはあると思われた。

役場管理職の半数が女性とのことであった。令和6年6月から温泉施設「大芝の湯」を利用した産後ケアの新たな事業に取り組まれているが、キメ細やかさが光る支援策の背景には女性ならではの発想が取り入れられているように思えた。

人口減少社会が避けられないなか人口減少対策に苦慮しているが、南箕輪村が大切にしている「今住んでいる住民が幸せになるような施策を行うことが、移住者も長く幸せに暮らせることにつながる」という理念や「村の子どもは村で育てる」との行政の決意が印象的であった。



(Ⅲ) 伊那小学校 第 46 回公開学習指導研究会

〔伊那市の概要〕

伊那市は長野県南部に位置し平成 18 年 3 月 31 日伊那市・高遠町・長谷村が合併し新「伊那市」として誕生。人口 64,901 人（令和 7 年 1 月 1 日）面積は 667.93km。市内には小学校が 15 校、中学校が 6 校、特別支援学校が 1 校ある。

〔視察目的〕

長野県伊那市立伊那小学校のトップページには「内から育つ。学校は子どもたちにとってこころゆく生活の場、詩境でなければならない。」とある。「子どもは自ら求め、自ら決め出し、自ら動き出す力をもっている存在である」という子ども観に立ち、子どもたちの求めや願いを大切にできる総合学習・総合活動をカリキュラムの中核に据え、子どもの活動の姿や言葉、しぐさ、表情等から子どもの内に迫るための研鑽を積みまれている。長年の主体的な総

合学習の成果を把握し、浜田における初等教育の在り方の参考とするため、第46回公開学習指導研究会へ参加した。

〔調査研究活動の概要〕

期日・会場 令和7年2月1日(土) 伊那市立伊那小学校

日程

(1) 自由参観授業 8:25～9:10(45分)

学級	教科等	題材名	授業者
1年忠組	総合学習	いっしょにすごすのたのしいな ～くうちゃんゆきちゃんと出かけよう～	原 宏典
1年孝組	総合学習	しろとくろといっしょ～しろとくろとおさんぽ～	高橋龍太
2年森組	総合学習	うこっけい大家族と越える2年目の冬 ～うこっけい広場ですごそう～	小林正樹
3年夏組	総合活動	めざせ!わたしのジェラート ～これがわたしのジェラートってことなのかな～	小池大志
3年秋組	総合活動	織り込もう蚕たちと私たちの思いを～紡いだ糸を織ろう～	藤澤志穂
4年直組	総合活動	お弁当をつくってちょっくら出かけよう ～食べてわたしのおにぎり～	川上達磨
5年正組	算 数	単位量あたりの大きさ～どの部屋がこんでいるかな～	荒谷眞治
6年勇組	総合活動	勇組レストランを開店しよう ～わたしたちの「挑戦」を味わってもらおう～	加藤勇樹

(2) 授業者との懇談 9:15～9:45(30分)

(3) 開会行事・研究発表 10:00～10:30(30分)

(4) 共同参観授業 10:45～11:30(45分)

学級	教科等	題材名
1年文組	総合学習	「みんなとぼうけんへ出かけよう(冬)～いつもの林へ行こう～」
2年山組	総合学習	「ミルクとココアといっしょ ～冬となかよし～」
3年春組	総合活動	「クリスターもまわりのみんなもわたしも ～クリの人慣れ&PR大作戦!」
4年謹組	総合活動	「響かせたいなわたしの音～わたしのカホンで演奏したい～」
5年毅組	総合活動	「こんな色を出したいな～冬の植物と出会う色～」
6年智組	総合活動	「冬の林でみんなと楽しもう～冬の林で作る“わたしのピザ”～」

開会行事・研究発表は体育館で一同会して行われたが、自由参観授業、授業者との懇談、共同参観授業については7名が1年から6年までの各学年に分かれて参観したので授業内容等についてはそれぞれの所感を参照されたい。

[開会行事・研究発表要旨]

○登内淳校長挨拶

北海道から熊本まで全国から 750 名を超える参加があった。公立の学校で今年度職員の 1 / 3 が入替った。1 年目の職員を支えながら本校で大事にしたい方向は揃え力を合わせてきている。ここ数年は伊那小学校が多くの方に知られるようになり移住による転入児童が増えている。前の学校では不登校、学校に適應できない等の課題を抱える子どもも少なくなく対応に苦慮している。教員不足の苦しい状況も続いているが、子どもを中心に大事にする教育に意欲を注いでいる。

○「内から育つ ― 対象とかかわり続けながら、学びを深めていくこども ― 」

研究主任 荒谷眞治

本校では「子どもは自ら求め、自ら決め出し、自ら動き出す力をもつ存在である」という子ども観に立ち、子どもの求めや願いに立った学習を展開することで、子どもが元来もっている生きる力を更に育むことが出来ると考えている。総合学習、総合活動を教育課程の中核に位置付け、子どもと教師が共に創っていく授業の実現に向けて研究実践を積み重ねてきている。研究テーマである「内から育つ」は今年で 34 年目を迎えた。子どもの言葉やしぐさ、表情といった「子どもの事実から学ぶ」という事例研究を通して、内からの育ちを願い、子どもの内に学んできた。昨年度は、子どもの思いがあふれ出ていく姿に着目し、いくつもあふれる子どもの思いがあふれ出た姿をできる限り全てを繁ぎ、紡いでいこうとしながら、子どもの内に追っていった。そのなかで、子どもたちが対象に働きかけたり、対象からの働き返しを感じたりしていきながら、自らの学びを深めていく子どもの内を考え合った。

本年度の事例で見えてきたことは、子どもは向き合っている対象が私にとっての対象となって自らかかわり続けていくことで学びを深めていくことがある。対象が秘める魅力、本物のモノ、人へのあこがれ、私と同じ対象にかかわる友の存在など様々な背景によって、子どもは向き合っている対象が「私にとっての対象」となって自らかかわり続けていくのではないか。子どもと共に歩む教師のかかわりもまた子供が対象とかかわり続けていくことや学びを深めていくことに大きく関係しているのではないだろうか。【以上】

[授業内容]

○自由参観授業[3 年秋組]

総合活動「織り込もう蚕たちと私たちの思いを～紡いだ糸を織ろう～」

自分たちが育てた蚕が残した繭から糸を紡ぎ織るという授業。3 年間で最後の蚕に自分が育てた蚕が生きていた証、思い出として残したいという思いを大切に手作りの編み機であみ体験を行う授業風景を参観した。子どもたちは思い思いの会話を楽しみながら作業をしていた。授業者は必要以上に手も口も出さない印象を受けたが、長時間関わっていない子どもに対しては配慮もされていた。「見取り」は心の内を見取るということと価値判断をしないとすることに注意されているように思えた。また、能動的子ども観に立つと教師の基本的な構えは待つこととあったが、追究の臨界点まで待つことも意識されているように思う。

○共同参観授業[3 年春組]

「クリスターもまわりのみんなもわたしも ～クリの人慣れ&PR 大作戦!」

ポニーのクリスターは牧場に帰ると馬房からほとんど出られなくなる。自分たちとの生活を終えた後にも少しでも幸せに過ごしてほしいと願う子どもたちが、もっと人慣れして牧場のお客さんの人気者になれたり、自分たちの後にクリスターを借りたいと思う人が出てきたりすることに繋がるようクリスターとの生活の魅力を伝えていくというもの。クリスターを連れて学校の周辺を散策する授業だった。まわりの大人たちに「触っておかないと一生後悔するよ」「クリも喜ぶから」というPRか「クリの後ろに行かないで」と安全を気遣う注意喚起も行っていた。

【所感】

全国学力テスト偏重の教育とは異なる伊那小学校独特の探究型教育について子どもたちの表情や授業者の言動に対する反応、教室や野外授業での空気感を感じるように努めた。

伊那小学校では通知表も時間割もチャイムもない。動物の飼育などの教育活動で知られており60年以上「探究型教育」が引き継がれ「先進的」な取組として評価されている。伊那小学校のルーツは「信州教育」で大正期の新教育運動から派生した「子どもを中心にとらえる教育」で、1918年から長野県師範学校の淀川茂重の教えを受けた教員たちが伊那小学校に赴任し、いまの源流をつくったといわれている。

「子どもは自ら求め、自ら決め出し、自ら動き出す力をもっている存在である。」「子どもは私たちが引き上げてあげるような存在ではなくて、子ども自身は私たちなんか超えて、自ら学ぼうとしている存在である。」というのが伊那小学校の子ども観といわれている。そこには子どもを信じる、子どもの力を信じるという精神が貫かれているように思う。

一般的な授業感は「教師主導の授業」で、教師が知っていること、できることを子どもに教え、わからせるのが授業であるが、伊那小学校では「子どもと共に創る授業」で、同じ対象を子どもと共に追究し、学ぶのが授業と伊那小学校の授業感のとらえ方に根本的な違いも指摘されている。

「答えが出ない事態に耐える力」、ネガティブ・ケイパビリティという概念が最近取り上げられることがあるが、多様な価値観の中、複雑化する社会に生きる子どもたちにとって重要かつ不可欠なものといえる。総合学習を通じて人が生きていくうえで大切なことを身につけることができ、自己肯定感も育まれるのではないかと思った。

近年「こどもまんなか社会」といった言葉を耳にするが、伊那小学校ではその本質に迫る教育が実践されており研究も進化している。しかも全国、海外の教育者も含めが研究会に参加し自己研鑽に励む姿に接したとき初等教育の充実への期待を感じることが出来た。

伊那小学校の探究型教育の取組が、県内にとどまらず全国の小学校へも良い影響を与えており、近くでは鳥取県泊小学校で取り組まれている。市内の小学校での総合学習・総合活動において伊那小学校の子ども観や授業感など優れた面は参考にさせていただき子どもにとってより良い教育がなされるよう期待したい。

先生も子どもたちも入れ替わり、時代も変化する中にあっても受け継がれている要因の中に各学年の助言者の協力と教員同士が相談しあえる同僚性があるといわれている。

昨今の教員不足やなり手不足のしわ寄せが現場の負担感につながるのではないかと懸念がある。質の高い教育を提供できるためにも教員の待遇改善と教育環境のための教育予算の拡充が必要である。【以上】

